

10月の植物

タンナトリカブト キンポウゲ科トリカブト属

Aconitum japonicum Thunb. subsp. *napiforme* (H.Lév. et Vaniot) Kadota

9月末から10月にかけて天山の草原を彩る植物です。本種は近畿以西から九州にかけて分布するとされていますが、久住山や九州の脊梁山地では主に林下の半陰地で見られるのに天山ではなぜか日の当たる草原に自生しています。

トリカブト属植物は日本各地に約40種が知られていますが、すべて有毒です。全草にジテルペンアルカロイドのアコニチン類を含み、特に塊根の毒の強さは植物界では最強と言っても過言ではありません。アイヌ族は古くから塊根の煎液を矢毒として用いていました。誤食すると1時間以内に舌や手足のしびれ、嘔吐、さらに筋肉の痙攣、不整脈を起こし死に至ることがあります。春の若芽は山菜のニリンソウと間違いやすいので注意が必要です。また、最近、園芸店で見かけるハナトリカブトも取り扱いに要注意です。

昔から「毒もまた薬なり」とはよく言ったものです。塊根は烏頭（うず）、子根は附子（ぶし）と称し、新陳代謝亢進や鎮痛を目標として八味地黄丸や真武湯など多くの漢方処方に配合されています。もちろん、漢方薬に配合する場合は加熱処理（炮附子）や塩漬け（塩附子）をして減毒し、さらにアコニチン含量を測定した上で用いられます。

佐賀県内には近縁のレイジンソウ(*Aconitum loczyanum* Rapaics)も自生していますが、本種は細長い主根のみで子根をつけることはありません。同様に猛毒であることから注意が必要です。
(野中源一郎)



2016.9.23 小城市天山



母根（烏頭）



附子

塩附子